

明石のまちづくり

AKASHI NO MACHIDUKURI

第14号

2024年3月

一発行一

明石市連合まちづくり協議会

編集：広報部

連絡先：明石市コミュニティ生涯学習課

TEL (078) 918-5004

明石市連合まちづくり協議会のスローガン

まちづくり ゆめづくり

※今回紹介している校区の広報紙は QR コードからご覧いただけます。

つなぐ

広報を通じて校区内の情報、人、団体をつないで参加、連携のきっかけに



朝霧

住民インタビューで地域活動を身近に

CLOSE UP



第1回 校区内自治会長インタビュー 「朝霧北町」 大村 次夫

「大石市の個人情報を活用するための取り組み」が、自治会活動の一環として進められています。朝霧、朝霧北町、朝霧南町、朝霧東町の4町では、町民の声を聴き、町民の生活に寄り添った取り組みを進めています。町民の生活に寄り添った取り組みを進めています。町民の生活に寄り添った取り組みを進めています。

広報紙「KAKEHASHIかけはし」では、毎月自治会長へのインタビューを掲載。自治会長などに活動のことだけでなく、趣味や暮らしぶりなど人柄を伝えることにこだわって紹介しています。地域で活動する人が、より身近に感じるようで、活動へのハードルが下がっているといえます。



花園

まち協が各種団体の情報をまとめて発信



毎月発行の広報紙「花ちゃんだより」では、地域の自治会や学校その他団体の活動や情報を記載しています。花ちゃんだよりは各自治会を通して各戸に配布するほか、幼稚園・小学校でも配布するため、校区の自治会員以外にも広く情報が伝わると、日々の地域情報がまち協事務局に集まっています。



さそう

広報で参加を呼びかける、一緒に活動へ



松が丘

校区内のよく見かける、よく通る場所でふれあいガーデン紹介とサポーター募集

まち協がサポーターの皆さんと運営する「ふれあいガーデン」前のバス停に、育てた四季折々の花を紹介する広報チラシを掲示。近隣住民がよく足を運び、目に止まりやすい場所に掲示することで、新たなサポーター発掘の機会にもなっています。



山手

「誰かがやっている活動」から「私にもできる活動」へ

スクールガード活動を同じ住民によるボランティアと知らない保護者がいると知り、「広報やまて」での特集と子育て世代向けチラシの配布を実施。誰でも参加できる活動として、わかりやすく活動内容や参加方法を紹介することで、新たなメンバーを増やしていきます。



人丸

各種団体やまち推のチームに記事を依頼し、一緒に制作

「子午線ひとまる」は、地域のスポーツ団体の活動内容や地域行事などを、実際に活動する皆さんに執筆してもらい紹介。楽しく活動されている方々から記事や写真をもらい、現場目線の活動への想いや、行事の面白さを伝えられる紙面になっています。



校区まちづくり組織と「広報」
近年、活動や取り組みを知ってもらおうと、広報やPRに力を入れる校区が増えていきます。広報活動の目的も多様で、日々の情報発信に加えて住民とのつながりづくりや地域参加のきっかけづくりを目的としている校区もあります。本号では、広報活動を通じてどのように地域や活動と住民をつなぎ、関心や参加を促しているのか、各校区の工夫や取り組みについて紹介します。

惹きつける

これまで接点のなかった住民を、紙面のデザインやWEBの活用で惹きつける



二見西

住民参加型の「表紙」でまちへの関心アップ



広報紙「ふたみにし」では、表紙を飾る写真を住民から募集。昨年はまち協で表紙用写真の撮影会を開催し、多くの子どもたちが参加しました。特に子どもの写真を掲載することで広報紙を手取る人が増え、広報紙の中面で紹介する活動についても知られるきっかけとなっています。



大久保

校区内のちょっとしたニュースをX(旧 Twitter) で日々発信



まち協の行事案内やサポーター募集に加えて、まちの隠れた史跡案内や農家さんによる朝市の紹介など、まちの出来事を幅広く発信しています。大久保のまちの様子がわかるとフォローする人が増え、サポーター登録者にも繋がっています。



まちナビAKASHI

QRコードから、まちナビAKASHIの校区別地域情報ページをご覧いただけます。このページから過去の「明石のまちづくり」のアーカイブを読むことができます。是非ご覧ください。



<https://a-machi.jp/machikyo/>

絞る

より伝えたい情報はテーマを絞って情報発信!



魚住

校区防災だより



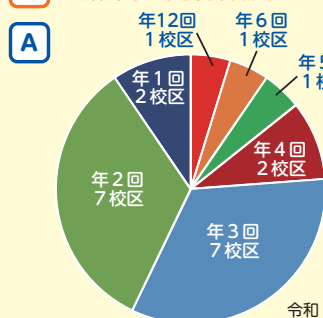
地域の様々な情報を載せる広報紙とは別に、防災に特化した「校区防災だより」を発行。各種訓練や講座の案内・報告と日常から出来る防災の備えについての情報提供を掲載し、広報を通じて防災の啓発を行っています。



広報どうしている!?

広報紙の発行頻度や配布方法、SNSを活用した情報発信など、他の校区の広報活動が気になるという声を受けて、調べてみました。

Q 広報紙の発行頻度は?



より情報発信に力を入れていくため、今後広報紙の発行頻度を増やす校区もあるようです。

Q SNSって使ってる?

A 公式LINEを使った情報発信は10校区近くで行われており、いくつかの校区ではこれからInstagramの利用も検討しています。

Q 広報紙ってどう配ってる?

A まち協のことを知ってもらうため、挨拶を兼ねて会長や役員が手配りで自治会未加入世帯や学校など各種団体に広報紙を配布しています(高丘) 中学校と連携し、生徒に配布されているタブレットに広報紙の情報をデータで送付しています(二見北)

この広報紙「明石のまちづくり」は赤い羽根募金の助成金の一部を使って作成されています。

校区まちづくり組織

清水校区の取り組み



明石市内の小学校区では、それぞれの地域の実情に合わせたまちづくりを進めています。広報紙「明石のまちづくり」では、各校区で試行錯誤しながら取り組まれている内容について、連合まちづくり協議会の広報部会が取材し、事例として紹介しています。

明石市の北西部に位置する清水校区は、多くの文化財と豊かな農地を有しています。「清水まちづくり協議会」(以下、まち協)は、昨年に活動を見直し、4つの既存部会に新たに結成した「自治会部会」を加え再始動しました。各部会を筆頭に活動の展開を試みながら、住民の関心や参加を広げることに注力しています。

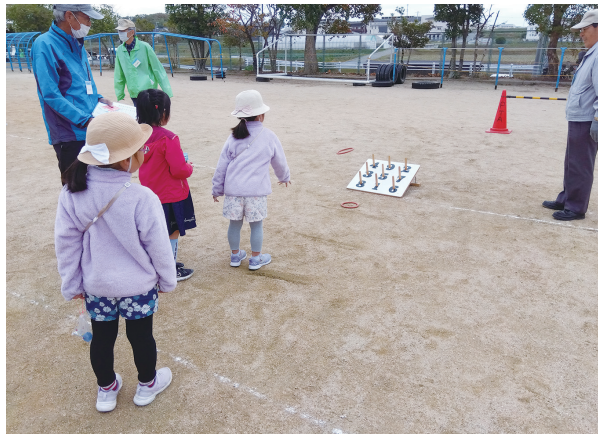
今回は、そのような活動や工夫を伺いました。



▲清水のいちごをモチーフにしたまち協のキャラクター「いちごたん」をグッズ化。活動時にまち協のスタッフと一目で分かるようにと制作されました。

「しみずフェスタ」や「お花プロジェクト」で住民と共に活動するまち協

「今のまち協活動を担う方の多くはベテラン達。これからは新しい住民の参加も広げながら一緒に活動していきたい」と意気込みを語った橋本浩司会長。地域との接点が少ない住民にも地域や活動を知ってもらう機会づくりに力を入れています。



▲「敬老のつどい」エリアでは、いきいき部会や応援に駆けつけた高年クラブの皆さんと一緒に輪投げを楽しむ子どもたちの姿がみられました。

昨年11月の「しみずフェスタ&敬老のつどい2023」もその機会づくりの一つとして開催されました。元は別々だった「しみずフェスタ」と「敬老のつどい」を合同開催することで、これまで以上にいろんな住民が交流する機会になりました。敬老のつどいを企画したいいきいき部会長の川口賢次さんは「年齢に関係なく楽しんでもらうことで、地域には見守ってくれる大人がたくさんいるんだと子どもたちに感じてもらうおうち」と話します。企画した輪投げやグラウンドゴルフ体験ブースでは幅広い年齢層の参加で賑わい、世代間交流も生まれました。

また、日常でも関心を広げようと、景観部会が種から育てた苗を自治会などへ配布する「お花プロジェクト」を年2回実施しています。ビオラやパンジーなど5種1800株の花の苗を育てる段階から参加の機会を設け、植え替えや水やりなどの世話は各自治会や花好きの住民を

誘って行いました。校区各所に広がった花を見て、住民はまちがきれいになったと話しており、さらに皆でまちをきれいにしようという活動に加わる住民の輪が広がっています。

「コロナ禍の活動で見えた住民の関心度」

現在の活動のきっかけは、コロナ禍での経験にありました。当時、コロナ禍で出来る活動を模索するなか企画したのが「写真コンテスト」です。きっかけは、役員の皆さんが校区のため池で羽ばたくコウノトリの写真に魅了されたことだそう。『清水の魅力』をテーマに募集すると、なんと風景や行事の様子など約100作品が集まりました。橋本会長は「声をかければ参加してくれると気づいた。さらに参加を広げようとコミセンでの作品展示や投票形式の審査、広報紙での結果発表なども行った。今後のまち協活動では『一緒に活動すること』を大切にしようとなった」と言います。

「趣味や好きを地域で活かしてもらおう」

「地域の活動に興味のある人がいれば誘ってほしいと自治会長などへ案内している」と話すのは、子ども食堂の活動に



▲「お花プロジェクト」では花の栽培に詳しい住民が参加者にレクチャーして種まきを実施。会話が生まれ和気あいあいとした雰囲気で作業が進められました。

も携わり子どもたちの地域参加を広げている事務局長兼子ども部会長の三原育美さん。実際に誘われて「お花プロジェクト」の立ち上げから関わった景観部会副部会長の大原良三さんは「趣味でやっている花の家庭栽培がきっかけで声をかけてもらった。知識を活かして活動できている」と話します。また、まち協の活動に関わるまでは一切地域のことを知らなかったという大原さんですが、「お花プロジェクト」を通じたポイ捨て防止の啓発や防犯対策、住民同士のつながりづくりを強化していきたいと語り、今ではまち協の活動を担う主要なメンバーとなっています。



▲清水コミセンでの取材風景。色々な立場でまちづくりに関わる皆さんにお話を伺いました。

「地域を知ってもらおう近道は参加してもらうこと」

まち協副会長兼景観部会で活動する永田美徳さんは「自分自身も活動し始めてから地域を知った。地域を知ってもらうには、広報活動だけでなく実際に参加し実感してもらおうことが大事だと思う」と話します。

清水校区は若い世代や外国籍の方の転入者も多く、自治会の加入率が下がる傾向の中で、住民と共に活動できる機会を増やし、関心と参加をひろげるまち協活動へ進んでいます。

編集後記

広報は記事を書いたり集めたり、紙面づくりを考えます。取材では訪問もします。こちらの質問に大きく頷いてくれたり、「自分たちの良さに気づいた」という反応などがあるととても嬉しくなります。

一方で、広報は自ら輝くためではなく、わかりやすく知らせるために伝わりやすい言葉選びも考えます。今回は、各校区の広報活動を集めた「連合まち協の広報」です。いかがでしょう。(広報部会)



あかしまちづくり懇談会を開催しました

2023年11月11日(土)、複合型交流拠点ウィズあかしにて、防災・環境・参画の3つをテーマにあかしまちづくり懇談会を開催しました。

初めの全体研修では、合同会社Roof共同代表の佐伯亮太さんから、これからのまちづくりを考えるヒントとして「これまで通りでは停滞。小さきながらも意識的な変化が必要」などのお話をいただきました。

各分科会では、外部講師や市内で活躍されている方にご講演をいただき、参加者同士で意見交換などを行いました。分科会①防災では「自助の大切さ、公助の限界」「これからの時代の地域防災」について、分科会②環境では「楽しく」「つながる」などをキーワードにした活動事例、分科会③参画では「目的を意識した会議」「アイデアは実現まで応援する」など、多様な人が関わる工夫について話されました。佐伯さんからは「まずは“この人”という人を見つけ、つながってはどうか」と助言をいただきました。

参加者からは「様々な事例を聞いて勉強になった」「他校区ともっと交流の機会を作りたい」などの声がありました。

